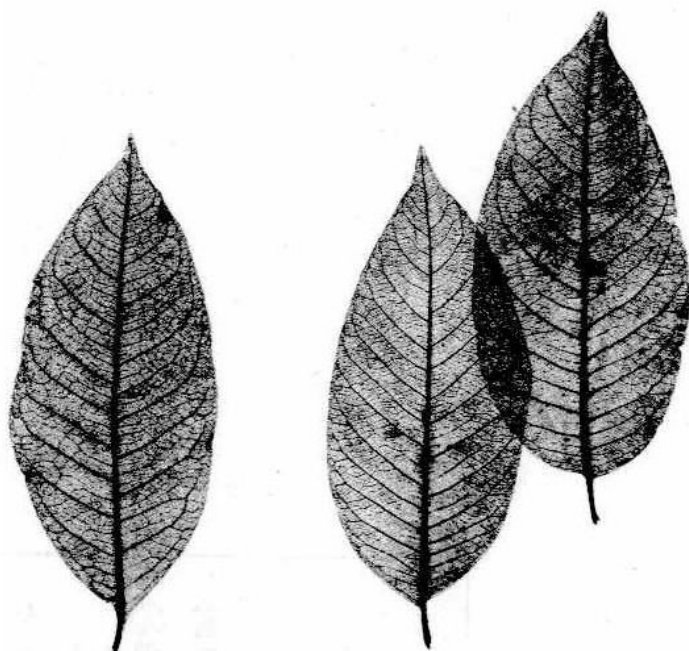


イタリア式 恋愛力で 幸せになる!

takako·HANZAWA·MELOSI
タカコ・半沢・メロジ




知恵の森文庫



^{しきれんあいりよく} ^{しあわ}
イタリア式恋愛力で幸せになる!
^{はんざわ}
タカコ・半沢・メロジー

2002年5月15日 初版 1刷発行

発行者—松下 厚

印刷所—慶昌堂印刷

製本所—榎本製本

発行所—株式会社光文社

〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6

電話 編集部(03)5395-8282

販売部(03)5395-8113

業務部(03)5395-8125

振替 00160-3-115347

©takako HANZAWA MELOSI 2002

落丁本・乱丁本は業務部でお取替えいたします。

ISBN4-334-78159-4 Printed in Japan

Ⓔ本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

イタリア式恋愛力で幸せになる!

『イタリア式恋愛力で「愛され上手」な女になる』改題

タカコ・半沢・メロジー



知恵の森文庫

光文社

はじめに

——イタリアへ行くと、女性はみんな綺麗に、そして幸せになる——

たとえばあなたが、フイレンツェでひとり——。アルノ川の流れに見入っていたとしましょう。決して「美しい」とは言えない深く濁った川でも、遠く近く、教会から鐘の音が鳴り響く夕暮れどきなどとしたら、シチュエーションは最高です。

ふと目をそらし、何気なく横を向くと、あなたを見つめる男性がいます。あなたと目が合ったことに気がつくのと、彼は「ボナセラ（こんばんは）」、あるいは「チャオ（やあ）」と声をかけてくることでしよう。

相手は、見るからに女性好きなタイプのラガッツォ（若者）だったり、お腹のポコンと飛び出たオジさんかもしれません。あるいは、粹なファッションでスタイリッシュにキメた渋めのシニョーレ（紳士）の場合だってあるはずですよ。

実はこの瞬間こそ、イタリアが最もイタリアらしさを発揮するシーンです。「ラテ

ン・タイム」とても表現しましょうか。

ともかく、彼は別にナンパしてきたわけじゃなし。ましてや、いきなり襲いかかるわけでもありません。

こんなときは「まあ、やーね、声をかけてきたりして……」などと顔をしかめず、適度な笑みと共に「ボナセラ」などと返しましょう。そうすれば、あなたはたちどころに世界一のチャーム・レディに早変わり……。

なぜ、世界一のチャーム・レディになれるのか、ですって？ それはイタリアではこういうときは決まって次のような会話が続くからです。

——キミ、日本人？

——ええ、そうよ。

——きれいだね。なんて美しいんだ！

うーん、もう、調子がいいんだから、イタリア男って。そう思いつつ、なぜか悪い気がしないのが女心というものです。

念を押しますが、このやりとりは決して特別なことではありません。アモーレ（愛）に満ちあふれた国イタリアならではの嬉しい事実、なのです。

由美さん（30歳）の例をあげてみましょう。彼女がローマ暮らしを始めたのは3年前。彼女のイタリア行きには、それまで日本でレッスンに通っていたイタリア語に磨きをかけたいという理由の他に、婚約者との愛に失望したことも大きく影響していたそうです。

彼女の婚約者は、同世代で大企業に勤めるエリート社員でした。ルックスも悪くないスポーツマンタイプ。かなりのファッションセンスを備えていました。そうです。一見、理想的なパートナーだったのです。

ところが、1年、2年と交際が続いていくうちに、どうも彼の傲慢さが鼻ごうまんについてきた、と言う由美さん。エリート特有の自分の知識を鼻にかけるような言動に、息苦しさを感じるようになったのでした。

加えて彼は大のアメリカ好き。ことあるごとにアメリカがいちばんであるという自分のポリシーを押しつける傾向があったそうです。ふた言めには「フン、イタリアなんて」と悪言を吐き、「あんないい加減な国じゃなくあ」が口癖の彼が、由美さんのイタリア語レッスンを快く思うわけがありません。「何の役にも立ちやしない。やめ

「ちやえよ」と繰り返すばかりでした。

ある日、彼のイタリア批判がエスカレート。罵倒ばとうの連続となり、とうとう我慢が限界を越えてしまった彼女。「本当のイタリアやイタリア人を知りもしないで、あなたこそいい加減そのものじゃない。そういうのをエセ・エリートって言うのよ。あなたって、何に対してもそうね」と冷ややかに告げました。

すると、「なに〜イ」と、彼の手が上がり、由美さんは頬を強く叩かれたそうです。そんなことが何回か続き、彼女は「もうダメ。彼とはこれ以上つきあっていけない」と決意。婚約を解消すると共に、イタリア行きを実行に移したのです。

ローマでの生活がスタートして半月ぐらいたった頃、公園で知りあったのが現在の彼、ロベルト（27歳）。ちよつと長めの髪、中肉中背。どこにでもいるようなポピュラータイプの青年でした。出会ったその日の別れ際に、

——ねえ、明日、会わない？

と言われた由美さん。突然の誘いにエーツ、そんな〜あ、と尻ごみしました。

——いいじゃない、会おうよ。

彼はそれでもなおも誘いの言葉をかけてきます。

——もし時間があるんだったら、コーヒーでも飲みに行こうよ。

——うーん、明日って急に言われても……。

——いいじゃないさーあ、会おうよ。

決して押しつけがましくなく、あくまでも明るく言われたものだから、とうとう彼女は根負けしてしまい、翌日のコーヒー・デートを約束したのだそうです。

これが由美さんとロベルトの恋の始まり。ジャポネーゼとイタリアーノのインナモラメンティ（恋愛）の誕生でした。

ロベルトは、小さな食品工場で働く工員です。当然、エリートとはほど遠い存在。外見的にも、由美さんの「好み」とは言えません。けれども、ロベルトは別れた婚約者にはなかった温かいハートを持っているのだと彼女は教えてくれました。彼の「やさしさ」、そして「情熱」に、日を重ねるごとに心が動いていったそうです。

「たとえば——」と、彼女は話してくれました。

——私が日本へ帰るときなど、空港まで送ってくれるんだけど、そのあとも飛行機の姿が消えるまで空を見つめてくれているんですって。家へ帰ってから航空機事故がないかどうか、ニュースにかじりついたまま。実家に着いた頃には、「無事だった？」

と電話をかけてきてくれたの。時差があるので、イタリア時間では早朝のはずなのに……。

由美さんがイタリアへ戻ったときには、かわいそうにゲツソリと頬がこけていたというロベルト。「毎日ユミはどうしているかと思うと心配で仕方がなかった」と彼から言われ、胸がキューンとなったそうです。

——こういうやさしさって、前の彼にはなかった。だから、なおさら感動しちゃうの。現在、由美さんとロベルトは、ローマ市内のアパートで同居中。来年は結婚の予定だとのこと。

——そりゃ、時にはケンカもする。でもね、ロベルトのフォローはあったかいの。ケンカした翌日、外出から戻ると、サロンのテーブルに真っ赤なバラが一輪飾られたりしてる。「どうしたの、これ？」と聞くと、「昨日はごめんね」と彼。「花屋さんで、いちばん大きくてきれいなバラを選んだんだよ、ユミのために」だって。何本ものバラの花束をプレゼントされるより嬉しかったわ。

由美さんは今、「生涯でいちばん幸せ」と言い切ります。親や友だちからは、「あんなエリートの手と別れて……」とずいぶん批判もされるようですが、自分の選択に

誤りはない、と胸を張ります。

なによりも、彼と共に、自然な気持ちでゆったり過ごせる。素直な心で毎日を楽しんでいける。その快適さがたまらなく心地よいそうです。

「彼のやさしさが私を幸せにしてくれている、そう思うの」と微笑む由美さんこそ、自信に満ちあふれた立派なドンナ・ジャポネーゼ^{日本女性}。「立派な」だけではなく、誰よりも美しく輝いていたこともつけ加えておきましょう。

イタリアには、由美さんのような女性が国籍を問わずたくさんいます。いったい、なぜなのでしょう。イタリアの何が女性を綺麗に、そして幸せにさせるのか、それをこれから探ってみようではありませんか。

「イタリア式恋愛力で幸せになる！」目次

はじめに——イタリアへ行くと、女性はみんな綺麗に、そして幸せになる——

1 騎士道精神に由来する、
大人の恋愛が宿る国

17

2 イタリアの男性は
世界一のほめ上手・口説き上手

26

3 言葉のキャッチボールこそ、
ステキな恋の始まり

37

4 いい男をゲットするための
イタリア流「誘惑術」

45

5 恋をしたらまず、
自信を持って相手の目に訴える

57

6

明日の幸せと愛を呼び込むのは、
とびきりの笑顔

63

7

ケンカ後の仲直りに効く「チャーオ」に学ぶ
ふたりの関係が長続きする秘訣

71

8

セクシーに理屈なし！
女性性は女らしさを、男性は男らしさを強調する

84

9

男心をそそり、
女を上げるファッションセンス

92

10

ファンデーションより
まずアイメイクを決める

98

11

ジェラシーをかきたて、
かきたてられて、
恋の激しさは強くなる

108

12

命あるかぎり希望がある！
失恋してもメゲたりしない

115

13

占いもいい。
でも、将来のことは誰にもわからない

122

14

人のハートを動かす
チャーミングなプレゼントの贈り方

135

15

ヴァレンタインデーは男性から……!?
本場イタリアのプレゼントの上手な贈られ方

145

16

本当の贅沢は、やさしさとロマンあふれる
心そのもの……愛とアイディアに満ちたバースデー

154

17

大人の恋愛を感じさせる
ベーシックなデートのカギはディナータイム

165

18

女性にとって仕事は重要、でも、
恋や結婚はもっともっと大切

178

19

愛しあう者たちのセックスは美しい。
不慮のできごとにも勇気をもって責任を

183

20

結婚に年齢は関係ない！ 大切なのは愛しあった
ふたりが、ベストな状況でゴールすること

190

21

結婚するまで10年、15年つきあうこともある。
だって、愛する相手と添いとげたいから

198

22

失敗しない結婚なんてできるの？
イタリアの離婚率が低いワケ

206

23

情熱、そして甘いやさしさ
ラテンの国ならではのロマンス

217